


神奈川県議会議員(茅ヶ崎市選出)

くさか景子の

No. 82
 県議会報告
 2014
 3月号

と ちよっ よろしいですか！

と  民主党・かながわクラブ県議団

首都直下型地震に備えて！被害の主因は火災！

昨年12月19日、国では首都直下型地震の被害想定を発表しました。今後30年間に70%の確率で発生すると言われ、火災による焼失が大半を占め、揺れ、液状化、急傾斜地崩壊による全壊を大きく上回っています。

県内でも、木造住宅密集地の横浜では、木造密集地域火災対策公開訓練が行われ、延焼を防ぐには住民がいち早く消し止めるしかない、誰でも消火栓を使えるよう訓練したいと自治会も積極的に参加しています。茅ヶ崎市の南側の住宅密集地も延焼率が高いといわれ対策が求められています。



県としては、出火防止策としての感震ブレーカーの設置促進、初期消火に努めるなどの対策を立てています。県の条例でもうたわれている自助、共助、公助、個々の家庭で取り組む出火防止と地域の連携が鍵を握る初期消火が重要です。しかし、消火に関われない人は火を見ずに早めに避難するよう促しています。一人ひとりが防災意識を高め、災害に備えましょう。



海を汚さない下水道トンネル完成！

茅ヶ崎市では、国道134号線の地下に、新しい貯留管ができました。平成19年から2期に分けて工事を行い、2.6km、36億円、7年かけてこの程完成しました。

市南側は、合流式下水道で、雨天時に雨水と汚水が混じった下水の一部が未処理のまま相模湾に放流されていました。そのため、相模湾の水質保全を目的に貯留管工事を実施、汚染度の高い水は貯留管に、晴天時には下水処理場に送ることになります。また、今回の工事が出た建設残土を侵食が進む中海岸の養浜材として再利用されることになり、環境にも貢献される工事となりました。

私も内部を見学しました。地下約10mの深さに内径3.75mと2.6mの二つのトンネルができており、工事の精度の高さがわかります。工事竣工一般見学会には雪にも関わらず、60人もの市民が訪れ、この工事への関心の高さも期待が伺われます。



下水道トンネルの中で



2月6日、子宮頸がんワクチンについての集会に参加しました。

議員インターン 小関昭仁(聖マリアンナ医科大学 医学部)

子宮頸がんワクチンは一時期、対象年齢の女子全員に接種するように勧められていましたが、この時の呼びかけでは、ワクチンは安全に子宮頸がんを防げるものだとし、副反応についてははっきり言及されていなかったように思えます。ワクチン被害者の方々も副反応について考えていた人は少なく、接種の際に医師からの説明も無かったと言っていた方もおられました。



子宮頸がんワクチン院内集会に参加

ワクチン接種実施前の対応に問題があることも確かですが、私はそれ以上にワクチン被害者が出た後の対応に不満を感じています。まず、ワクチン被害者が少なく見られているのは、被害届を患者が出さないと数に入らないためです。これにより、正確な被害者数が把握できていないこととなります。さらに、ワクチン被害として認められている症例についても、「経過不明」となっているものが多く十分な追跡調査が行われているとはいえません。副反応の原因も単純に、心身の反応、精神的な問題として片づけられてしまうことも多いようです。

どんな医療技術も、すべての人に対してメリットだけをもたらすような完璧なものではあり得ないはずです。完璧な医療技術が存在しない以上、それがもたらす結果を真摯に受け入れて技術の改善を行っていくのが医学・医療の本来の姿です。多くの治療法や予防法も、実施、改善を繰り返して発展してきたのです。

ワクチン接種後の副反応についても、十分な調査を行ってデータを公表し、より良い予防法の確立に役立てるべきではないでしょうか。



くさか景子のほっとコラム

子宮頸がんワクチン接種者アンケート

茅ヶ崎市約4割「体調変化」2月13日市HP公開

対象者 5,269 人のうち回答 2,382 人 体調変化 38.7% 15 人が現在も続いています。症状は、「注射部の痛み、かゆみ、腫れ、赤み」「だるさ、疲労感、脱力感」などでした。市はこの結果を、国県に報告、さらに医師会など関係機関に報告しました。国は、3 月末にもワクチン接種再開の方向のようですが、各市でのアンケート結果に慎重姿勢を示して欲しいと思います。

